

相高新聞

相生市山手1-722-10
TEL.(0791)23-0800



HPのQRコード

三学期始業式

一月八日(金)、三学期始業式を行いました。三学期始業式も新型コロナウイルス感染症対策のため、各教室で行いました。

小西校長先生は式辞で次のようなお話をされました。

「『藍より青い』をひとつご紹介いたします。『**呑牛の氣**(どんぎゅうのき)』。これは、私が担任をした生徒が教員となり、その彼から新年の賀状で頂いた言葉です。『呑牛の氣』、牛を丸呑みにするほど大きな心意気という意味から、やる気に満ちあふれていることをあらわすそうです。皆さんも自分が尊敬する『人のまねをすること』からスタートし、『藍より青い』人間になることを目指して、頑張っていきましょう。」



↑各教室のプロジェクターを通して、始業式が行われました。



始業式後、中村生徒指導部長より、次のようなお話がありました。

「二〇二一年の干支は『かのとうし』と読み、漢字では辛いという字と土用の丑の字を書きます。『辛丑(しんちゅう)』とはどんな年になるのか？ネット上で調べてみると、古きことに悩みながらも終わりを告げ、新しい芽生えを見いだす年になるそうです。コロナで窮屈な世の中になっていますが、その中で、新しい芽生えの年であるとも言われています。皆さんがそれぞれ何かを見出していくのは、各人の日頃の行いです。

校長先生も言われたように何かを目標にしてしっかり学ぶことが大切です。皆さんの成長・進化に期待しています。」

(校長先生式辞・中村生徒指導部長講話の全文は、相高ブログに掲載しています。)

震災追悼行事

一月十五日(金)午前八時十五分、震災追悼行事を行いました。阪神・淡路大震災から26年目を迎え、当時の状況を思い起こし、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りしました。

初めに、放送を通して校長先生より次のようなお話がありました。

「残された者、新しく生まれた者の責任は今と未来を精一杯に生きることですが、それ以上に大切なことは震災の記憶を風化させないことであり、震災の事実と教訓を今に生かすことです。大災害に見舞われた時、最初は『**自助**』、次は『**共助**』、次に『**公助**』が来ると言われています。大震災を経験した県民の一人として、また、震災経験を風化させず、将来いつどこで起こるか分からない自然災害に対して、事前に備えること、命の尊さ、助け合いの大切さを伝えていきたいと思えます。」

校長先生のお話の後、震災でなくなられた方のご冥福をお祈りして、1分間の黙祷を捧げました。

今を生きる者として、一日一日を大切に過ごしていきたいでしょう。



四十二回生

共通テスト激励会

大学入試改革の旗印の下、腹を括ってスタートした四十二回生の三年間は、諸々の旗の撤退があり、止めが昨年三月からのコロナウイルス禍の中での第三学年の始まりでしたが、一月十六・十七(土・日)に行われる共通テストのスタートラインに立つことができました。



それに向けて、一月十五日(金)四限目に、共通テスト激励会を行いました。大変早い集合状況には、翌日に向けて気合いと緊張の現れともれそうですが、体育館の両サイドに掲げられた、体育大会で使用した各クラス旗三年分にも出迎えられる、少し肩の力も抜けたのではないのでしょうか。

学校長の激励からは、「笑顔・感謝」をキーワードに、PTAから頂いた相高キヤラクター「あい丸」のキーホルダーの裏にあるように、「大願成就」を果たしましょうとお話がありました。進路指導部長からは、

先輩の失敗談を例に、勝手に、出来不出来を決め付けず、各教科をきちんとやり切るこの大切さを伝えて頂きました。

続いて、学年進路より、受験全体の注意事項と自己採点の在り方と、方法、タイミングの話等を確認し、三日間の行動を確認しました。

そして、学年主任から、ここから始まる闘いに向けての檄に、得も言えぬ緊張感が・・・

荒内学年主任から熱い歌とメッセージがありました。



そんな緊張を、学年の先生方が温かくほぐしてくる漫才を一席設けて下さいました。



山本一芳先生、兼田先生による【メガネボーイ】大盛り上がり！緊張がほぐれ、笑顔が見られました！

最後に、授業でお世話になった先生方からの温かい応援メッセージを受けました。

